

**歴史文化保存展示施設専門検討委員会 第 2 回活用部会
意見要旨《発言順》**

報告(1)「世界こども美術館と小学校とのヒアリングについて」		
No.	内容	
1	質問	ヒアリング実施者数と役職等は。
	回答	世界こども美術館は館長 1 名、学芸員 2 名の計 3 名。 小学校は浜田市教育研究会社会科部会の教員 5 名で、3～6 年生の担任で実施した。
2	質問	中学校のヒアリングは実施していないのか。
	回答	中学校はカリキュラムの都合上、校外学習の実施が難しいことから、実施をしていない。
3	質問	現在の中学校・高校との連携はどうか。
	回答	浜田郷土資料館については、浜田高校が近いこともあり、頻繁ではないがクラスで来られている。
4	意見	中学校は部活等で忙しい面はあるが、やはりヒアリングは実施すべき。 中学校では、歴史学習開始前に興味付けとして、また歴史学習後に振り返りや全国と浜田との比較などで利用が想定できるのではないかと。
	回答	今後、中学校にもヒアリングを実施したい。

議題(1)「歴史文化保存展示施設で行う活動内容について」		
No.	内容	
1	意見	活動内容(案)については、ヒアリングの内容がある程度反映されていて基本的には良い。ただ、中学校にもヒアリングをと話があったように、小学校へのヒアリングも社会科部会の一のみの実施であったので、中学校も含め、幅を広げて意見を集めれば、より具体的になっていくと考えられる。

2	意見	<p>今後の議論への提案として、下記が挙げられる。</p> <p>1 場について</p> <p>先生からの要望に、学習スペースの確保があり、重要な点である。ハードとも関連する部分だが、館で吸収したことを落ち着いて考えられる時間が取れる場所が必要。また集団で集まれるような場所も必要である。</p> <p>2 タブレットについて</p> <p>タブレットはバーチャルな場として機能する。館でも学校でも一連で利用できるのも、タブレット利用をひとつの場として捉えてデザインする必要がある。</p> <p>3 SNS の活用も考えるべき</p> <p>4 運営の主体者について</p> <p>これからの博物館のあり方として、地域や高齢者、ボランティアなども主体者の一人として位置付けていくことが求められる。また子育て支援センターへもヒアリングを実施すれば、主婦層なども主体者の一人として取り入れることも可能である。</p> <p>難しいことは承知しているが、今の段階から考えていた方が活用のデザインの幅は広がる。</p>
3	意見	<p>場の確保については、創作活動室がポイントとなる。またコレクション室も学習スペースとして、利用ができると思われる。</p>
4	意見	<p>タブレット利用は一つの柱となりうる。一方で、実物に触れ、体験させることも重要であり、相反する事柄を上手く融合させる必要がある。</p>
5	意見	<p>世界こども美術館で実施しているミュージアムスクールは、上手く活用すべき。ただ、歴史部門で新設するのか、美術館と振り分けるのか、午前と午後で内容を変えるのか、など様々なパターンが考えられ、それぞれの手法研究と学校との協議が不可欠である。</p> <p>また、学校利用では、一般的に館で学習、学校で感想文というプロセスだが、学校で学習、学習内容を館で展示、児童・生徒が見に来るなどの逆の発想も考えられる。</p> <p>子育て支援センターとの連携に関しては、未就学児への歴史学習において、歴史の刷り込みが起きないように配慮する必要がある。例えば、浜田をテーマとした際に、魚ばかりを題材としてしまうことがあり、これでは浜田＝魚となってしまう。年齢別の教育効果なども見極めて活用を探るべきである。</p>

6	意見	<p>未就学児への活動に関しては、やはり子育て支援センターへのヒアリングが必要である。未就学児へは直接教え込む必要はなく、楽しい場の提供で良いと思う。むしろ未就学児を取り巻く親や祖父母などへのアプローチが大切である。</p>
7	意見	<p>議論を進める上では、館の規模、人員体制、予算の制約があることを前提に、この中でベストを探る必要がある。</p> <p>この中でタブレット利用は良いことであり、展示解説シートなどはタブレットに置き換わっていくと思われる。</p> <p>また、3階コレクション室は、開館当初はデジタル対応が可能な映像展示室であり130㎡ある。ここは集団で学べる場になりうる。</p>
8	意見	<p>コロナ禍においては、ICTの活用が求められる。また、館の運営には多くの人の支援が必要であり、市民ボランティア制度は一つの柱となる。</p>
9	意見	<p>ミュージアムスクールを考える上では、美術館利用は図工・技術の部門、歴史展示施設は社会科部門になる。それぞれの活動の狙いは異なるため、検討が必要となる。</p> <p>展示見学後に創作活動を考えた場合には、石見焼や石州和紙などの伝統的工芸品が素材として考えられる。企画展示で伝統的工芸品を扱い、その職人を招いて創作活動も可能ではないか。小学校では石見焼窯元の職人の講義、創作活動の事例がある。</p>
10	意見	<p>今回提示の活動内容(案)の全ては、人員不足のため実施できない。ボランティアに加えて、退職教員や郷土史家などを集めた常設的なチーム作りも必要ではないか。</p>
11	意見	<p>展示の話にもなるが、子どもたちが手掛けたものを展示して欲しい。子どもが学習した内容を壁新聞などで活用すれば、親子で訪れる機会となる。図書館総合展で実施されているが、好評である。</p> <p>子どもたちの活動が見える場所、地域に根差したあたたかい博物館になればいいと思う。</p>
12	意見	<p>子どもにつながりがある展示は大事であり、子どもの友の会のような組織があってもいいのではないか。ある活動を実施する前に、何か基盤となるような組織づくりが大切である。</p> <p>また教員への研修会も必要と思われ、子どもへの教え方についても内容に含めるべきである。</p>
13	総括	<p>今日はより具体的なアイデアが多くでた。今後も検討を進めたい。</p>